



九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ NO ECOLOGY.NO BUSINESS

K-RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND
ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

vol.1 #2011

(財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24

TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp>

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)

「平成 23 年度 K-RIP 総会」開催

～新会長に鶴田 晓氏（環境テクノス株代表取締役）が就任～



平成 23 年 6 月 7 日、ハイアット・リージェンシー福岡におきまして、企業・自治体等 128 会員の出席のもと、平成 23 年度九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 総会を開催しました。

冒頭、麻生会長の挨拶および K-RIP 顧問の滝本徹九州経済産業局長、花嶋正孝(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター長の来賓挨拶のあと、吉田哲雄(㈱ワイビーエム代表取締役会長)を議長に選出、平成 23 年度事業計画（案）など 5 議案について審議し、すべて異議なく承認されました。

今回の役員改選においては、平成 15 年 7 月から 8 年にわたって会長を務められた麻生泰氏（㈱麻生代表取締役会長）が退任され、新会長に鶴田暁氏（環境テクノス㈱代表取締役）の就任が決定しました。

また基調講演では、㈱ナガオカ代表取締役社長の三村等氏をお招きして、「中小企業の海外ビジネスの展開について」という演題でご講演いただき、大変興味深いお話を伺うことができました。

- | | | |
|--------|---------|---------------------|
| (総会議案) | 第 1 号議案 | 平成 22 年度事業報告について |
| | 第 2 号議案 | 平成 22 年度収支決算報告について |
| | 第 3 号議案 | 平成 23 年度事業計画（案）について |
| | 第 4 号議案 | 平成 23 年度収支予算（案）について |
| | 第 5 号議案 | 役員の改正（案）について |

■会長挨拶 麻生 泰 氏 【株式会社麻生 代表取締役会長】

只今ご紹介いただきました、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）の会長をしております麻生でございます。

本日は、皆様お忙しい中、平成 23 年度 K-RIP 総会にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

循環型経済社会の構築に向けた取り組みを推進することを目的に、平成 11 年 11 月に K-RIP が発足しまして、はや 11 年が経過いたしました。この間、K-RIP を取り巻く環境は、3R を始めとした資源循環型社会の構築から低炭素社会の実現へと広がりをみせ、今や全産業、全企業が環境問題を自分の問題として取り上げていかなければならぬ時代に突入しております。



つまり、環境ビジネスを志向している K-RIP にとっては、確実にフォローの風が吹いており、今後は、この風向きをしっかりと見極め、如何にしてビジネスにつなげていくかが重要であると考えます。

私も、昨年度の K-RIP の活動の中では、昨年 9 月の九州環境クラスター大学において、活気あふれる受講生を前にしての講演を行ったり、本年 1 月、「中国遼寧省環境ビジネスミッション」に参加し、K-RIP と大連市が結んでいる MOU に基づく「第 2 回産業交流会議」に出席するなどいたしました。

特に、大連での交流会議では、K-RIP 会員企業の中国における事業展開に係る調印や進出企業の課題などの協議において大きな成果をあげており、私どもが目指してきた環境ビジネスの国際展開が、いよいよ実を結び始めてきたものと実感しております。今後もこのような会員企業のアジア地域での展開について、九州経済産業局と連携を取ってまいりたいと考えております。

本日、ご審議いただきます 23 年度事業計画におきましては、昨年度と同様、「国内の環境ビジネスの具体的案件の創出に向けたネットワーク強化事業」と「アジア展開支援事業」の 2 本の柱立てを行い、引き続き国内のビジネス創出とアジアビジネス展開支援を計画しております。

また、昨年度からジェトロ RIT 事業を活用してスタートしました中国山東省との環境ビジネス交流についても、引き続き予算を確保することができました。

山東省との交流は 2 年目に突入し、具体的な成果を出すべく、鋭意取り組んでまいります。

このアジア展開については、昨今、K-RIP が特に力を入れている分野でございまして、今回の基調講演においても、アジア地域も含めてグローバルに展開されている株式会社ナガオカ代表取締役社長の三村様から、ご講演を頂く予定でございます。複数の企業とのネットワークによって、新たな付加価値を創造し、国内外で戦略的に環境ビジネスを手がけていらっしゃいますので、アジア展開を進める企業の皆様にとって、大変参考となるお話を聞けるものと思います。

一方、国内に目を向けますと、東日本大震災の復興に向けた取り組みが始まっています。

K-RIP がこの 11 年間取り組んできた環境・エネルギー分野の技術やノウハウが必要となる時が来ると思いつますので、その際は、会員の皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

さて、ご審議を頂きます前に、ご報告がございます。

昨年 1 年間お世話になったアジア展開コーディネーターの伊藤さんが辞められ、後任として新しく包（ほう）さんが着任されました。前任者同様、ご活躍いただけるものと思います。

そして、私も 8 年間、会長を務めてまいりましたが、今回の総会をもちまして退任することを先程の役員会に諮つて頂きました。

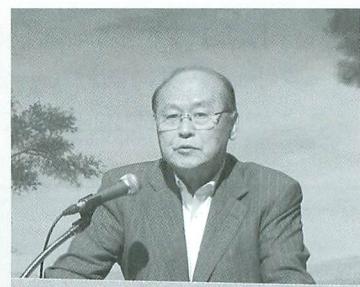
石川前会長からバトンを受け、就任時に掲げました「環境の産業化」を推進するためのネットワーク形成、需要の創出、市場の開拓を図り、「メイド・イン・K-RIP」を「環境・リサイクルブランド」として定着させるため、努めてまいりましたが、一定の成果を上げることができたと考えております。これもひとえに、ご尽力いただきました会員の皆様、そして九州経済産業局の全面的なご支援のおかげと心より御礼申し上げます。

この後、選任されます新会長の下、新しい体制で今年度事業に取り組んでいくこととなります。引き続き、会員の皆様方の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

■新会長就任挨拶 鶴田 晓氏 【環境テクノス株式会社 代表取締役】

この度、麻生会長の任を引き継ぎ、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザの会長に就任することになりました。皆様、あらためまして、どうぞ宜しくお願いします。

K-RIPは、今から11年前の1999年11月に誕生し、以来、環境・リサイクル産業の人的ネットワークの形成などに取り組んできました。その間、環境・リサイクル産業を取り巻く環境は大きく変わり、社会の目指す方向は資源循環型社会から低炭素社会、さらに持続可能な社会の実現にあります。これからはエネルギー分野も含めて、より効率的で環境に優しい生活スタイルを目指すものとなってきております。つまり、ありとあらゆる分野で環境を意識した取り組みが前提となる時代に突入しております。



こうした中、麻生会長のもと約8年間にわたり、その時代時代の社会的要請に応え、会員企業の皆様と共に様々なチャレンジをしてきました。近年では「環境NPOとの交流拡大」「九州域内の地域拠点の創造」「販路拡大・事業化支援」「環境・リサイクル産業のアジア展開」等に取り組み、環境ビジネスの振興と地域経済の活性化に大きく貢献してきました。

今後も、変わりゆく時代の要請に応えながら、人的ネットワークの更なる拡大・深化、グリーン・イノベーションの創出、環境ビジネスの創出を行い、ますます発展していくと考えております。

しかし、そのためには、K-RIPは、常に変化する社会的な要請を的確に捉え、それに応えていくための柔軟なネットワーク組織の創造、新たなソリューションを提供するための仕組み作り、市場創造等に取り組んでいくことが不可欠であると考えます。

特に、市場が急拡大しているアジア地域の環境市場へのソリューション提供については、ビジネスミッション等を通じて、K-RIP会員企業の皆様が様々な成果を出されており、これからも期待されるところです。

このように、K-RIP会員企業の皆様のチャレンジに対し、ネットワーク組織として支援出来るよう、私どもは、九州経済産業局や自治体、大学、地域の産業振興関係機関などと連携を密にしながら、必要な取り組みを行っていこうと考えています。皆様、ぜひ、共に進んで行きましょう。

麻生会長におかれましては、約8年間、会長としてK-RIPを率いていただき、大変ありがとうございました。これからも引き続き、K-RIPへのご指導を賜りたいと考え、顧問就任をお願いする所存です。どうぞ宜しくお願ひします。

最後になりましたが、K-RIPの活動に対する皆様方の日頃のご協力に感謝申し上げるとともに、今後もK-RIPの発展へのご支援をお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

■基調講演

「中小企業の海外水ビジネスの展開について」(中国・アジアへ広がる海外展開) 株式会社ナガオカ 代表取締役社長 三村 等 氏

【講演者略歴】

1975年永岡金網株式会社【現、株式会社ナガオカ（大阪府泉大津市）】に入社、取締役営業部長などを経て、2004年株式会社ナガオカ代表取締役社長に就任。就任後、大胆に改革を断行し、見事に会社を復活させたことで、2009年11月には起業家表彰EOY 2009 JAPANにおいてファイナリストに選出された。



独自考案した「TOP TO DOWN」戦略で、世界を飛び回り、世界のプロセスオーナーにナガオカの技術を認証させ、石油精製・石油化学プラントの内部装置分野（インターナル）で世界のトップに躍り出た。

その後インターナルの技術を応用して取水分野に進出。スクリーン技術を地下水取水分野のスタンダードの地位として確立させた。

近年、海外の水市場に着目。現地を自ら訪問し、各国の要人との人脈作りに努め、海外、特に中国での事業展開に注力している。

得意の交渉力と語学力を駆使して、国際水協会（IWA）にも技術を売り込み、IWAに自社の技術である無薬注水処理の優位性を認めさせ、2010年度IWAより全世界の水に関する革新的技術の中から選出される「プロジェクト革新賞」を日本水道業界で初めて受賞した。

また、関西の大企業と連携し、企業連合「関西HANDS」を立ち上げ、水・環境事業のトータルパッケージシステムを全世界に向けて提案している。

K-RIP プロジェクト

K-RIP プロジェクトとは、新たな環境関連プロジェクトに関する提案を公募し、採択したプロジェクトの実現に向けて、資金の一部助成や専門家による指導・助言を行う支援事業です。

ここでは、平成 23 年度 K-RIP プロジェクト採択案件を紹介します。

テーマ：「トレーラー移動式炭化炉で廃棄物の資源循環や移動制限のある廃棄のオンサイト処理研究」

概要：日本や海外、特にアジアにおいて、未利用バイオマスや廃棄物処理物を再資源化するためオンサイト（現場）で炭化熱分解処理することで循環型社会の構築を図る。また駆除動植物、鳥インフルエンザのような移動制限のある廃棄物もオンサイトで熱分解処理する。処理は高性能トレーラー移動式炭化炉装置（カーボX-II）によりオンサイトで短時間、かつ、経済的に安全に熱分解処理することで熱処理滅菌・無害化することを目的とする。

株式会社 SUMIDA

代表取締役社長 入江 康雄

テーマ：「リサイクルバイオプラスチック微粉末を活用した製品の性能向上と展開戦略」

概要：同社は平成 9 年度から九州工業大学とともにバイオプラスチックのひとつである『ポリ乳酸』のリサイクル技術開発に取り組んできた。そして同大学による省エネルギー『ポリ乳酸粉体化』技術の開発をきっかけに、事業化に向けた動きを本格化させている。本プロジェクトでは、最終製品のひとつである『ポリ乳酸微粉末』と『土』等を混ぜ合わせたハイブリッド新素材に焦点を当て、競争力・付加価値向上を目的とした製品の性能向上を図る。

環境テクノス株式会社

代表取締役 鶴田 晓

テーマ：「医療機器の再資源化スキーム確立プロジェクト」

概要：再資源として大きなポテンシャルを有しているにもかかわらず、従来「廃棄」を主として処理されてきた医療機器をリサイクルするため「再資源化（標準）スキーム」の確立を図る。また、将来的に、医療機器購入時における判断基準の構築を目指し、そのスキームの環境貢献（負荷度合）を指標化していくことも目指す。

伊吹運送有限会社

代表取締役 伊吹 博

テーマ：「南九州における畜産由来バイオガス事業を核とした地域資源循環型社会の構築」

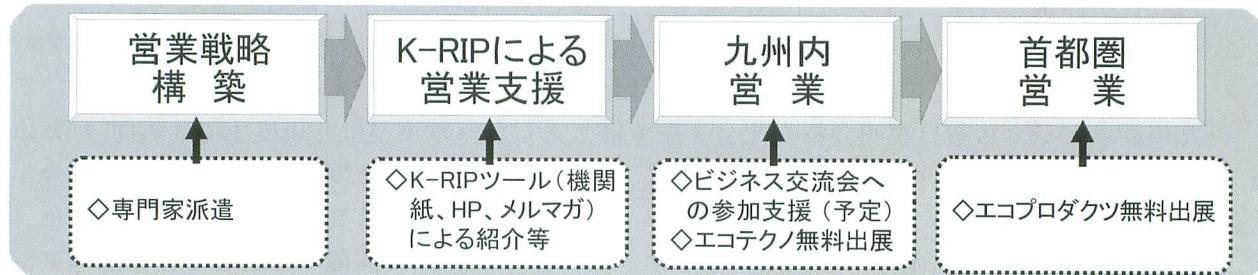
概要：南九州地域において畜産業は重要な産業である一方で、多量の畜産廃棄物を発生させており、適切な処理が地域の課題である。畜産廃棄物をメタン発酵処理を通じてバイオガスのエネルギー抽出を行い、発酵残渣である消化液を地域の農地へ散布することで廃水処理を省くことができれば、大量に賦存するバイオマスを持続的なバイオマスビジネスとして成立する可能性がある。そこで本事業では、畜産由来のバイオガス事業のための諸課題を解決し、地域循環型事業化の検討を行う。

鹿児島大学農学部

准教授 寺岡 行雄

販路開拓プロジェクト (22年度の成果と23年度の採択企業)

環境に配慮した製品を作ったものの、うまく販売につながらない、新しい技術を開発したもの、どうやって宣伝したらいいのかわからない。優れた環境製品を開発しながら出口である販路について悩んでいる企業の方々は少なくありません。販路プロジェクトでは、営業戦略構築に向けた専門家派遣や支援会議、全国・世界から集客のある環境展示会への無料出展、中小企業基盤整備機構のコーディネーターによる首都圏販売拡大支援など、K-RIP ネットワークを活用した様々な支援を実施しています。



22年度の事業成果



〔「エコプロダクツ2010（東京）における展示・商談〕

採択された環境製品は、エコテクノ 2010（北九州）、2010NEW 環境展（福岡）、エコプロダクツ 2010（東京）の3展示会において展示・商談を行いました。

(商談件数合計：380 件)

商談のほかにも、展示ブースに訪れた企業から販売代理店の希望や見積りの依頼があり、採択製品の販売拡大に繋がっています。

(2010 年度の採択製品)

「何でも乾(かわ)くん」研機(株)

「太陽システム」(株)サタコンサルタンツ

「M C工法」(株)ファーストソリューション

「ファームバリア」(株)宮防

○23年度は以下3社の環境製品が採択されました。

高水分率バイオマス、有機廃棄物の化石資源代替燃料化システム

(研機株式会社、福岡県福岡市)

孟宗竹揉摺機「ラブマシーン」

(西邦機工株式会社、福岡県大野城市)

行動管理ソフト「エコアクティブ」

(株式会社チェンジバリュ、福岡県福津市)

九州環境ビジネス業界説明会&交流会

(「中国環境ビジネスセミナー」と同時開催)

国内の環境ビジネスで培った技術を武器に、近年、成長著しいアジア各国の環境関連市場に果敢にチャレンジするため、海外高度人材（留学生等）や国際感覚に優れる人材を要所で上手く活用、または採用し、社内体制を変革し、アジア市場に効率良く参入する戦略的な中小企業が増えつつあります。

こうした状況を踏まえ、7月19日（火）に、地域の環境関連企業の皆様と、日系企業への就業やインターンシップ等を希望している海外高度人材（留学生等）や国際的な人材との交流の場を設けるべく、「九州環境ビジネス業界説明会&交流会」を開催しました。本事業は昨年度まで3年間、「九州環境クラスター大学・若手人材育成コース」として、シンポジウム形式で開催していましたが、今年度は企業の実利により結びつくようにするため、マッチングに特化した事業に刷新しました。また、今回、九州経済産業局が実施する「中国環境ビジネスセミナー」と同日開催することで、中国等アジア進出を計画している企業様にとって、効率的に参加できるように工夫しました。

◎プログラム

- ◇15:30～16:00：K-RIP事務局による業界概要説明及びオリエンテーション
- ◇16:00～17:30：学生が各企業ブースを訪問。企業戦略や求める人材等について話を聞く。
- ◇17:30～18:30：交流会

◎参加者

- ◇出展企業等：12団体 ◇学生：約40名
(長崎大学、九州大学、北九州市立大学、福岡大学等)

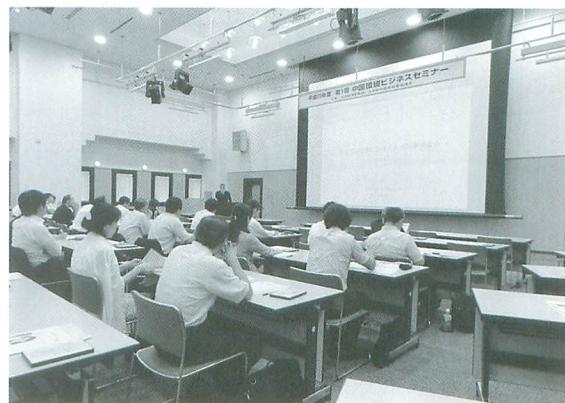
第1回 中国環境ビジネスセミナー

(「九州環境ビジネス業界説明会&交流会」と同時開催)

7月19日（火）、福岡県中小企業支援センター（福岡市博多区吉塚）において、「平成23年度第1回中国環境ビジネスセミナー」を開催致しました。環境ビジネス市場の拡大が見込まれる中国において、地域中小企業がいかにビジネスチャンスをつかむか、成功事例の紹介、模倣品対策、在日留学生や外国人研究者を活用したアジア展開戦略について、専門家をお招きしてご講演頂きました。

当日は約50名の方が出席され、各講演を熱心に聞かれました。

特に、K-RIP会員である（株）リサイクルワンの環境コンサルトである宮川英樹氏（現在、長崎大学に准教授として出向中）から、中国の環境市場のターゲット分野、留学生を活用した中国展開戦略などのお話をあり、大変有意義な内容でした。



環境ネットワークと学びの場「エコ塾」

—毎月第1水曜日開催—

九州経済産業局と連携して、環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目指とした「エコ塾」を毎月第1水曜日に原則として開催しております。誰でも自由に参加でき、2社の環境関連に取り組む企業のプレゼンテーションと立食形式での交流会を行っております。

今回は第47回～第51回までのエコ塾を報告致します。

第47回エコ塾

(4月13日開催)

○「プラスティック樹脂とゴムを溶融させた新・帯電防止樹脂素材」

発表者：株式会社レジナス 代表取締役 須崎 幸司 氏

概要：種々の樹脂素材とゴムを溶融させることにより、これまでの帯電防止剤では防げなかつた静電気による一時的な初期帯電も回避できる新・帯電防止樹脂素材についてお話し頂きました。素材パターンも多種多様であり、硬度等も自由に調整できることから静電気を苦手とする樹脂成型パーツへの汎用性も高く見込まれ、廃プラ等も利用可能であることから、環境・コスト等においても高いメリットを持つ新素材に期待するところです。

○「高殺菌材料皮膜化技術（MaSSC：マスク）応用商品の紹介」

発表者：株式会社フジコー プロジェクトリーダー 原賀 久人 氏

概要：北九州発の産学官連携開発技術として誕生した溶射法による高殺菌材料皮膜化技術【MaSSC：マスク】の光触媒の高密着性を可能にした高性能、高耐久性をもつ光触媒製品についてご説明いただきました。当該製品は、室内蛍光灯下で高い殺菌・消臭機能を発揮できる「衛生タイル」や空間消臭・空気感染防止・VOC作業環境指針対応商品である「空気浄化装置」として実用化しており、駅、病院などの公衆衛生に使用されているとのことでした。マスコミ等でも幅広く紹介され、参加者の関心を大いに集めていました。



講演中の（株）レジナス 須崎氏



質疑応答中の（株）フジコー 原賀氏

第48回エコ塾

(5月18日開催)

○「消防機器業界の現状と弊社の取り組みについて」

発表者：株式会社ナカムラ消防化学 管理部長 中頭 徹男 氏

概要：九州唯一の消防ポンプ自動車のメーカーとして、国内最高レベルのポンプ技術を有し、消防自動車の設計から製造までを行う企業の取り組みについてご説明いただきました。また、様々な新商品が開発されており、消火ボトルやパイプ状消火剤といった簡易消火用具等も商品化されています。また、エコ CAFS という消火システムでは、水と消火原液を混合した泡を消化剤に用いることで使用する水量を従来の 1／16 まで削減可能としたものであり、環境にやさしい消防剤として注目されています。今後は、マレーシアでも事業展開されるようであり、益々の活躍が期待されるところです。

○「中国エコ政策の最新情報と日本企業のチャンス」

発表者：中国中小企業情報網 日本支部(JCNET) 支部長 仇 堅 氏、谷口 清隆 氏

概要：JCNET (Japan China Network) は、中国政府機関である中国工業情報部中小企業司の下に設置された中国中小企業情報網の日本支部であり、中国全土の各支部や政府機関と連携しながら、日本企業与中国企業とのビジネス連携を高い信頼性を持って強力にサポートしている企業です。JCNET にしか提供できない中国の政策動向や環境分野などの補助金、国家プロジェクト等日本企業のチャンスとなる中国ビジネス情報についてご紹介頂きました。



講演中の (株)ナカムラ消防化学 中頭氏



挨拶をする 日本支部(JCNET) 仇 堅氏

第49回エコ塾

(6月1日開催)

○「100%脱臭を目指した微生物脱臭装置開発の現状について」

発表者：カーボン・ゼロ 代表者 桑原 美博 氏

概要：微生物脱臭装置についてご説明いただきました。具体的には、ゴミ処理場などで発生する温室効果ガスや悪臭を特殊な微生物により分解することで、CO₂ の削減や悪臭の無臭化等に寄与することが可能となり、分解後の空気は、空気より「重い」可燃ガスと「軽い」可燃ガスに分けられ、排出口を2カ所にすることでこれまで問題視されていた可燃性ガス等の爆発といった危険性もなくなり安全・安心にガスの分解・排出が出来るという話でした。当日は質疑も多く賑わいのある講演となりました。

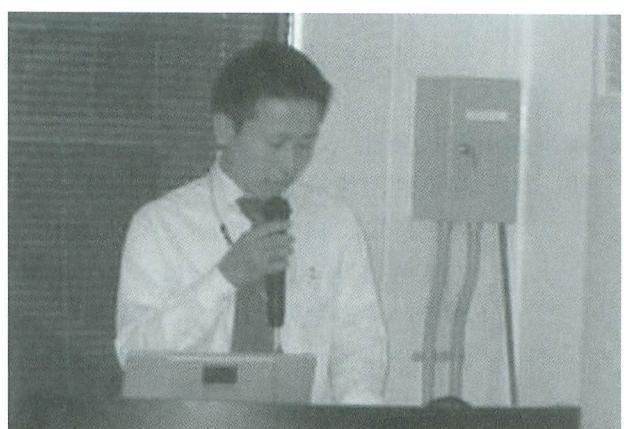
○「たてものの環境性能評価」

発表者：株式会社野田市電子 一級建築士 CASBEE 建築評価員 吉永 拓郎 氏

概 要：京都議定書に記載されている温室効果ガス削減の一つの手法として建物を新築・増改築する際の建築環境総合性能評価についてお話しいただきました。省エネ・省資源といった環境負荷削減の側面以外にも室内の快適性や景観への配慮といった、環境品質・性能向上も評価する「CASBEE (R)」という評価方法が普及しだしており、自治体によっては工場の建築等に際して CASBEE 評価書の提出が必要など、今後の環境対策の一つの目玉になっているとのことでした。企業の環境対策における重要性について大変参考になる話であり、参加者の関心を促す講演でした。



講演中のカーボン・ゼロ 桑原氏と古川氏



講演中の(株)野田市電子 吉永氏

第50回エコ塾

(7月6日開催)

○「二価鉄イオンが地球を救う」

発表者：無有産（むーぶ）研究所（山口大学 非常勤講師） 杉本 幹生 氏

概 要：鉄分の研究に30年もの時間を費やされ、鉄を錆びさせる技術で水域に鉄イオンを蒔き、環境を・・・地球を・・・救う取り組みについてご説明されました。水中に溶存する生活排水、工業廃水等の排出、汚染で増加している人工化学物質。この人工化学物質と Fe^{2+} 鉄イオンを結合させて水に溶存する量を減容させることで元来の水に戻していくという、生態系バランスの向上と生物多様性の再生及び循環を図る活動に対して、講師のこれまでの長年の研究と情熱に参加者からも多数の質疑が出て賑わいのある講演でした。

○「自然界の鉱物を使い、家中のお水を安全で安心なお水に」

発表者：土本ろ過器研究所 代表取締役 土本 政実 氏、営業部 吉丸 寛倫 氏

概 要：18年前、土本氏自らが体験した事から端を発し、その後は研究開発に身をそそぎ、実用新案、商標、日本水道協会認証等取得された製品「エコ浄活水ろ過器」（ウォータービュー）についてご説明されました。ろ過器開発当時から一貫して自然環境に優しいECO製品創りを目指し、石油製品は一切使用せず、お手入れはいたって簡単。ECO 100%にこだわり続けたというろ過器から作られる活性水は「安心安全の水」であり、防災用としても利用されているという土本氏の製品に対する熱き思いが感じられる講演でした。

第5回エコ塾 環境企業見学ツアー

(8月3日開催)

○株式会社エコウッド 代表取締役社長 石本 康治 氏

概要：建築現場や工場などから排出される廃木材と廃プラスチックを原材料に生産される建築資材「エコMウッド」についてご説明いただきました。当該製品は、原材料のほぼ100%がリサイクル材、廃材を利用しておおり、原材料から製品に至るまでの一連の生産工程を見学しました。製品を間近で見ることができ、天然木材の持ち味を最大限に活かし、天然材と比べて耐久性にも優れ、天候や細菌、虫による食害などにも強いというメリットを併せ持った製品技術の高さに感動しました。参加者の環境資源、環境産業の取り組みに対する理解力が増し、実際に工場見学することで目で見て肌で感じたことを率直に質問される場面が数多く見られました。また、説明を通じて、従業員の方々の仕事への熱意と情熱を感じることができました。

○麻生鉱山株式会社（エコノベイト響） 代表取締役社長 谷村 典孝 氏

概要：感染性医療廃棄物（手袋、包帯、ガーゼ、点滴セット、注射器、シャーレなど）について、高周波滅菌（EDT）という技術を日本で初めて導入した企業であり、当該技術を用いて滅菌処理を行った後は、固体燃料や金属、ガラスなど素材ごとに分別され再資源化されていく過程についてご説明いただきました。再資源化された製品はセメント工場等で燃料や原料の一部として使用されますが、その燃料となるサンプルを触りながら、ガラス張りの会議室から見える医療産廃物の破碎処理施設は印象深く、積極的な質問が数多く飛び交い、参加者の関心の高さを伺い知ることが出来ました。



参加者に説明をする（株）エコウッド 石本氏



質疑に回答するエコノベイト響 谷村氏

K-RIP コーディネーターのご紹介

K-RIP の各事業を効果的・効率的に進めるため、国内コーディネーター 1 名、アジア展開コーディネーター 2 名、計 3 名を配置し、それぞれ月 15 日程度活動しています。

国内コーディネーター 大崎 孝一



政府の「新成長戦略」を踏まえて昨年 12 月に制定された「九州成長戦略アクションプラン」では、「アジア展開」、「環境エネルギー」が戦略分野として取り上げられ、九州を、アジアをパートナーとして捉えた環境ビジネスの創出拠点として位置づけております。

これを受け、K-RIP としても、23 年度は新たにレアメタルやレアアースリサイクル事業や、再生可能エネルギー、低炭素（省エネ、新エネ）分野も連携、支援に取り組むことになりました。

そこで、これまで以上に九州地域内外のクラスターとの横断的な相互連携に努めるとともに、産学官ネットワークの拡充を図り、地域の有望な企業の発掘やニーズの掘り起こし、新事業創出、新製品・技術開発のためのビジネスパートナーのマッチングサポートに努めます。

また、関係機関の御協力を頂きながら、経営戦略や販路開拓の一元的支援、セミナーや展示会・商談会の共催によるビジネスチャンスの拡大、そしてメールマガジン配信、ホームページの改善による効果的な情報提供システムを構築し、会員の皆様の加入メリットの充実を図って参ります。

微力ではありますが、皆様のお役にたてるよう、九州の環境産業振興に取り組んでまいります。御意見、御相談がありましたら、何なりと御連絡ください。

アジア展開コーディネーター 渡辺 華奈絵（包 振華）

九州はアジアの玄関都市とし、古くから中国大陆および西洋文化の入口として栄えてきた歴史があり、いま日本・中国・韓国というアジア経済圏の合計は「世界の二割」を占める経済規模に成長しており、21 世紀はアジアの時代と言われています。

九州成長戦略アクションプランでは、アジア展開、環境エネルギーが戦略分野として取り上げられている中、K-RIP はその先頭に立って、まず会員企業の中国進出のために 4 年前から本格的中国の遼寧省と山東省との産業交流を含めてビジネス支援を行っております。

私は日中両国の商文化に精通し、日本企業の立場でビジネスを考え、コーディネート業務を遂行し、そしてこれまでの経験と中国での人脈を活かして、皆様に良いパートナーを見つけ、より多く「Made In K-RIP to China」が実現できるように全力で努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

アジア展開コーディネーター 村田 寛志

(独) 日本貿易振興機構 (JETRO) が発表した輸出有望案件として、環境、機械・部品、伝統産品、ファッション (アパレル等)、農林水産物等があり、また、日本政府も中小企業の輸出を奨励しているという状況にあります。これら案件の產品・サービスや技術については、日本では売れないもの・飽和状態にあるもの、さらっとっぴなアイデア、売り方の工夫…等々、海外に目を向ければ、大きく花開く可能性が秘められています。

とりわけ環境ビジネス分野においては、省エネ技術・製品をはじめリサイクル技術、汚染防止技術等、世界に誇れる高度な技術・製品を有している企業が多く、中小企業においても、アジア展開することで大きなビジネスチャンスがあるものと考えられます。しかしながら、進出相手国の言葉の問題をはじめ、仕事の進め方・考え方等マネジメント手法の違い、商習慣の違い、文化・風土等の違い等を考慮すれば、日本にいるときの感覚でビジネスを進めるわけには参りません。

K-RIP では関係諸機関と連携して、環境ビジネスのアジア展開を推進するために、パートナー探しからマッチング活動、フォロー活動まで、きめ細かなコーディネート活動を推進することで企業様の不安を取り除くべく活動を展開しております。輸入をご検討の企業様も含め、環境ビジネスのアジア展開をお考えの企業様は、是非ご一報・ご相談ください。

平成 23 年度 K-RIP 事業計画

開催月日	事業名	場所	連携団体
平成 23 年 4 月～ 平成 24 年 3 月	エコ塾（毎月第一水曜日開催）		九州経済産業局
平成 23 年 5 月 ～24 年 3 月	K-RIP プロジェクト		
平成 23 年 6 月 7 日	K-RIP 役員会、総会	福岡市	
平成 23 年 6 月 ～24 年 1 月	専門家派遣事業		K-RIP フェロー 日本技術士会等
平成 23 年 7 月 ～24 年 2 月	サブクラスター研究会 (年 4 回程度開催)	福岡市	
平成 23 年 7 月 19 日	九州環境ビジネス業界説明会&交流会	福岡市	
平成 23 年 8 月 ～24 年 3 月	販路開拓プロジェクト		
平成 23 年 8 月 ～24 年 2 月	環境エネルギー研究会 (年 3 回程度開催)	福岡市	
平成 23 年 9 月 7 日 ～9 月 9 日	環境ビジネス研究会 (九州環境クラスター大学)	唐津市	
平成 23 年 9 月	九州環境ビジネス大賞選考、審査 (エコテクノ 2011 にて表彰式)		
平成 23 年 10 月	環境展示会出展事業 (エコテクノ 2011 に出演)	北九州市	西日本産業貿易コンペ ンション協会
平成 23 年 10 月	中国・韓国とのビジネスマッチング事業 (エコテクノ 2011 にてセミナー及び商 談会開催)	北九州市	
平成 23 年 10 月	中国山東省との環境産業交流事業 (RIT 事業・山東省環境ビジネスミッシ ョン派遣)	中国山東省	JETRO 福岡
平成 23 年 11 月	環境ビジネス交流会	福岡市	九州経済連合会
平成 23 年 12 月	環境展示会出展事業 (エコプロダクツ 2011 に出演)	東京都	
平成 24 年 1 月	環境イノベーションフォーラム	宮崎県	EPO 九州 九州経済連合会
平成 24 年 2 月	レアメタル等リサイクルセミナー	福岡市	

[Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza] (K-RIP)
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東 2 丁目 13-24

（財）九州産業技術センター内

TEL 092-474-0042

FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp

平成 23 年 8 月 発行